

編集後記

本号には、我が国におけるアウグステイヌス研究を代表する三先生の御論考を掲載することができました。巻頭言も、「岩下壯一とアウグステイヌス」についての含蓄深い御論考となり、アウグステイヌス特集とも呼ぶべき号になりました。とはいえ、本号の魅力はそれに尽きません。ラテン教父の代表者であるアウグステイヌスのみではなく、東方キリスト教を代表する新神学者シメオンから、ドイツ神秘主義の代表者であるエックハルト、中世と近世の狭間に位置するクザーヌスに至るまで、教父の系譜を引くキリスト教思想の精華が豊かに一望できる号になりました。我が国の教父研究とキリスト教研究に資するところの大きな号になったことを祝したいと思います。

(山本芳久記)